

「X ジェネレーション」時代に向け、ICA 事業「離陸」！

5G による グローバル メディアの革命

現在、個人の シンガー・ソングライター、楽器のプレイヤー、ダンサー、アニメーター、脚本家、集合体の ユニット、バンド、ダンスチーム、劇団他のクリエイター達が、YOUTUBE やインスタ、Twitter 等 SNS上で活動し、そのフォロワー数十万人を有し、フォロワーが即、訴求対象のユーザーとなっている、ビジネスの潜在的な生態系が成立しています。

昔、アーティストや作家達は皆、レコード会社や出版社に通い、パッケージや書籍等でのマスに向けた デビューを目指しました。今は、個人も集団もウェブ上で活動し、ある秀でた者はネット上で「buzz」り、運の良い者は大手事務所や出版社からのオファーを受け、権利管理運用の契約を締結します。

2021 年、通信インフラの5Gへの移行が進むにつれ、コンテンツはストレスなく同時性を持ち、グローバルに流通するという「Xジェネレーション」の時代に向かいます。

史上初、大規模宣伝の仕組みや流通を有する大資本の法人でなく、「個」がストレスなくグローバルにコンテンツを発信でき、「メディア」として育つ潜在的な環境が生まれています。

ICA は 今、コンテンツの「メッセージ」を軸に、個々のクリエイターの潜在的な「メディア」価値を最大化する「プラットフォーム」づくりを目指しています。

個がメディアの時代

個がグローバルな発信者として、ビジネスを行う上で越えなければいけないハードルは、「マネタイズ」の仕組みと「言葉」の壁です。

先ず、ICA は、権利マネジメントの「マネタイズ」に関して、新たに誕生した このフィールドで、ビジネス上でも「一点突破」を目指し、次に全面展開をします。

そのミッションは、権利活用の「出口」を無限大に開拓し続ける事です。

ICA の役割

トータルコンセプトは、「良い創造性を、マネタイズし、市場の循環を創る」事。

即ち、「良い創造性」とは、自らも支持し且つ、いま世界に必要なメッセージ(コンテンツ)です。

「マネタイズし市場の循環を創る」とは、リアル上で又、バーチャル上で、或いはそのクロスオーバーするフィールドで、クリエイティブ所謂、コンテンツの RIGHTS・LICENCE をお金に変えクリエイターに還元。それが再び投資に回り、市場の循環を創る。マーケティングの構造を再構築し、その役割を担う事です。

5G 時代に ICA が構築しつつある プラットフォームに於いては、「入口」に クリエーター、「出口」に コンテンツ活用の機能を、それぞれクリエイターとマーケティングのニーズを持った対

象ユーザーに対して提供します。

初期の対象は、例えば、フォロワー30万人以上のクリエイター達。

クリエイターが創り出すコンテンツを記録メディアとして映像等の原盤権化を行い、現在のICAの流通インフラであるシネマコンプレックスに於いてリアル劇場及びヴァーチャル・シネマでの上映。或いはネット上でiTunes、APPLE MUSIC等での配信。或いはパッケージとしてCDやBlu-ray、DVD、マーチャンダイジングでEC、実店舗での流通を行います。

並行して、コンサート・イベント、POP UP STOREの開催、マーチャンダイジング、出版化。国内を始め各国の企業スポンサー等による出資等により、投資、還元、再生産というマネタイズのプラスのスパイラルをつくり出します。(コンテンツによるクリエイターのマネジメント)

言葉の壁

史上初、(理論的には)世界が国境を越えネットで繋がった現在、あらゆる情報、メッセージが共有され、一般には真実が追及され、権力者等には「嘘が付けない」時代となりました。

ここで未だ、メッセージ等の共有の障壁となるのは、各国言語の壁です。

現在、英語はある種、世界標準言語であるにも関わらず、世界で最も話される言語は、中国語、次にスペイン語、英語の様です。細かいニュアンスの問題もあり、勿論、各国法律、会計上の都合含め、グローバル企業は各国でのサービスのカスタマイズの為に現地法人をつくらなければなりません。

一方、言葉の障壁に関しては、翻訳ソフトの進歩は目覚ましく、いずれストレスなく同時翻訳が可能となると言われます。ネット上での言語「自動トランスレート」の時代到来です。

次のステップとして、あらゆるネット上のマーケットプレイスが目指す「グローバルプラットフォーム」は、アジア、インド、欧米、そしてアフリカ、中東へと言葉の壁、境界線を無くしていく事となります。

今、非接触型社会への移行が加速する中、ネットワーク上での活動ウエイトが増し、そこで如何なる表現と行動が為されるかが、その個人、法人の存在とほぼ同義になってきました。

世界が激動に向かう中、様々な課題を抱えつつ東北アジア含め世界の各所で地政学的なリスクは高まる一方、全体調和をはかれない部分利権の獲得に向かう各国の動きは、世界を危機に陥れます。グローバルにサステナブルを目指しつつ、各国の利権、経済の動き、各国民の幸せと3つのレイヤーの間で乖離が進むならば、先ず処方は、各国民の幸せを優先して施さなければいけないのかも知れません。正しいメッセージがグローバルに流通するなら、メッセージというコンテンツが世界を繋ぐ役割は大きいものとなります。

「Xジェネレーション」は「人間」という個が主として、世界が繋がる時代の幕開けなのかも知れません。